

第3章 北海道発信

一北海道情報の総合的な発信一

1 ポータルサイト

サミットに関する情報発信・情報共有を図るとともに、この機会を利用し、食や観光といった北海道の情報を道外や世界に向けて発信するために、平成19(2007)年11月、北海道洞爺湖サミット道民会議ポータルサイトを開設した。

開設・運営にあたっては、民間企業の広告収入等により必要な財源を確保する方法で実施した。

ポータルサイトでは、サミットに関連した情報や道民会議が主催・関連した事業や、北海道に関する情報を積極的に発信するとともに、日々行われたサミットに関連した様々な取組をトピックスとして紹介したほか、道内市町村が行ったサミット関連事業についても随時情報発信した。

開設以来、国内外から多くのアクセスがあり、サミット終了時点で約157万件、一日最大で約5万件(7月7日)を記録した。

【具体的な掲載内容】

- 北海道洞爺湖サミット関連情報
サミットの概要、G8各国概要、過去のサミット一覧、2008年G8関連会合一覧、交通情報等
- 道民会議主催・関連事業
道民会議概要、道民会議事業計画及び取組状況、主催・関連事業等スケジュール表、サミット通信、公式ポスター・シンボルマーク等
- 北海道関連情報
北海道の環境への取組、観光情報、食情報、北方領土、アイヌの文化と歴史等
- 民間企業との協働の取組
協賛事業、応援事業一覧、シンボルマーク活用事例等
- 多言語仕様
日英版を基本とし、一部コンテンツについて

9言語を掲載した。

【委託内容】

- 委託業務名 「北海道洞爺湖サミット道民会議ポータルサイト構築運營業務」
- 受託者 「NPO法人HEART」及び「(株)電通北海道」によるコンソーシアム
- 受託者選定方法 公募によるプロポーザル審査
- 委託料 無料(ポータルサイトにおける広告収入等により賄必要な財源を確保)



トップページ(日本語版)



トップページ(英語版)

2 北海道情報誌

サミットの開催に向け、国内外報道関係者及び各国代表団関係者等に、北海道に対する理解を深めていただくとともに必要な案内情報の提供を行うため、北海道の基本データや地域のお奨め情報の紹介、主な地理・施設や移動手段等を案内する情報誌を日本語版と英語版で作成し、配布した。

情報誌は3種類を作成、第1弾として、平成19年11月に北海道の基礎データを盛り込んだ「北海道データブック」を、第2弾として、平成20年2月に北海道各地の話題や魅力を紹介する「北海道エリアガイド」を、そして第3弾として、平成20年6月に洞爺湖町や留寿都村等サミット圏域の案内情報を掲載した「北海道洞爺湖サミットハンドブック」を発行した。時期をずらして作成配布することで、国内外報道関係者等に対して、北海道に関する情報を最も効果的かつ効率的に発信するとともに、最終的には、3つの情報誌が一体となって、本道の魅力の発信に相乗効果を発揮するよう工夫した。

【北海道データブック】

〈内容〉北海道の基本データ集

- ・ G8 各国との関係
- ・ 北海道のあゆみ、自然環境
- ・ 自然・生活・経済・産業
- ・ 国際交流、観光

〈規格〉A4判、34P

〈発行部数〉日本語版 6,000 部、英語版 8,000 部

〈受託者〉(株)ピーアールセンター

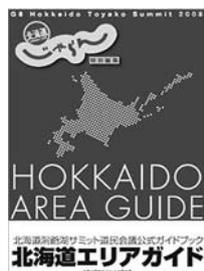
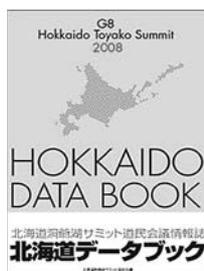
(社)北海道 IT 推進協会

【北海道エリアガイド】

〈内容〉道内各地域の魅力紹介

- ・ 環境特集
- ・ 6 エリア別による食・観光・文化等の紹介
- ・ 食材マップ、交通案内

〈規格〉A4判、36P



〈発行部数〉日本語版 7,000 部、英語版 8,000 部

〈受託者〉(株)ピーアールセンター

【北海道洞爺湖サミットハンドブック】

〈内容〉サミット圏域等の案内情報

- ・ 全道及び圏域マップ
- ・ 主要地区・見所紹介
- ・ 交通手段・時刻表
- ・ サミット関連情報
- ・ 滞在便利情報(お土産等)



〈規格〉手帳サイズ、80P、メモ用2色ボールペン付き

〈発行部数〉日本語版 6,000 部、英語版 5,000 部

〈受託者〉(株)ピーアールセンター

情報誌発行業務の受託事業者については、民間事業者が保有する多様なノウハウや経営資源との効果的な協働を図るため、発行経費については、提案事業者による広告収入等により必要な財源を確保することを前提条件に、公募型プロポーザル方式により選定した。

配布にあたっては、サミットの夕べ、プレスツアーなど、サミットに向けた様々なPR行事や各国先遣隊、G8サミット閣僚会合、関係省庁、都府県、関係市町村、北海道洞爺湖サミット道民会議構成団体のほか、要請に応じ駐日各国大使館や道内外の一般市民にも配付した。

また、北海道洞爺湖サミット道民会議ポータルサイトでも、各情報誌の内容を掲載し、国内外に広く情報発信を行った。

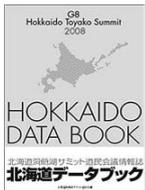
3 道民会議広報資料セット

国内外報道関係者や G8 及びアウトリーチ各国代表団関係者に対し、歓迎気運と北海道の魅力を伝えるため、3 種類の北海道情報誌や北海道が発行した広報資料、また企業・団体からの協賛グッズなど全 18 品目から組み合わせた「広報資料セット」を編成・配付した。

配布にあたっては、関係者の宿泊先ホテル(所在地：洞爺湖温泉、ルスツ、ニセコ、札幌市内等)に協力をいただき、チェックイン前に各室に道民会議会長である高橋知事からのウェルカムメッセージカードを添えて据え置き配付した。

【全 18 品目内訳】

《道民会議発行情報誌等》



①北海道データブック



②北海道エリアガイド

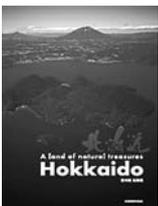


③北海道洞爺湖サミットハンドブック



④大地と海の食材マップ
北海道漁業協同組合連合会
ホクレン農業協同組合連合会協賛

《北海道発行の広報資料》



⑤観光パンフレット
「宝の蔵 北海道」
(A 4 判 14P / 日・英)



⑥観光DVD
「宝の蔵 北海道」
(3min / 8ヶ国語)



⑦企業誘致DVD
「CHALLENGE ORIGINATING FROM HOKKAIDO」
(8min / 英)(海外プレス用)



⑧北方領土パンフ
「知っていますか? 日本の北方領土」
(手帳サイズ 12P / 日・英)



⑨アイヌ文化パンフ
「アイヌ文化を理解するために」
(A 5 判 36P / 日・英)

《企業等の協賛品》



「道産材文具 (⑩木製ファイル、⑪とうもろこし皮のメモ帳、⑫レポート用紙、⑬道産材うちわ、⑭国産間伐材ボールペン)」から 2 点程度組み合わせ。(株)北海道銀行協賛



⑮エコバッグ、イオン北海道(株)協賛



⑯日本画ポストカード
(株)北海道電力協賛



⑰“写真総集「北海道」北の記憶”
(194 頁 掲載写真 159 点、海外プレス用)
NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク協賛



⑱エコバッグ
(株)北海道銀行協賛

これらのセットに同封したウェルカムメッセージカードには、利用済みの際には、環境配慮のため廃棄せず、室内に留め置くよう明記し、サミット終了後、回収を行った。

【配布数】

・約 5,500 セット

(英語版約 4,400 セット、日本語版約 1,100 セット)

(協力ホテル数：34 施設)

【ウェルカムメッセージ】



4 プレスツアー

平成19年11月から平成20年5月まで、全道を3日間ずつ5回に分け、在京外国報道機関等に対して、サミット会場などを視察する機会を提供するとともに、北海道各地の環境、食、自然、芸術文化を現場で体感し、その魅力を世界に発信していただくことを目的として、道民会議主催によるプレスツアーを開催した。

参加費は1名あたり2万円に設定し、参加者募集にあたっては、外務省及び(株)日本外国特派員協会などの協力をいただいた。参加者は、アジアやヨーロッパの通信・新聞社の東京支局特派員など合計21か国・地域、62名を数え、参加者が執筆・撮影した記事・映像が30本以上、世界各地へ配信された。

また、プレスツアー実施に際しては、各地域においてツアー受入れのための「おもてなしプラン」を作成し、環境への取組、アイヌ文化、地域の食材、郷土芸能など、道内各地の魅力を世界に発信するための協力をいただいた。

プレスツアー参加者 国・地域別一覧(単位：名)

機関国籍等	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	計
韓国				1		1
中国	2		2	1	4	9
香港	1		1	1		3
台湾		1	4		1	6
ベトナム				1		1
シンガポール			1			1
インドネシア				2		2
タイ		2				2
インド					1	1
バングラデシュ			1			1
ヨルダン					2	2
英国		2	2	1	1	6
フランス			1			1
ドイツ	1		1	1	1	4
イタリア				1		1
スペイン	1			1		2
EU	1	1			1	3
ロシア		2	3	2		7
アメリカ		1				1
カナダ	1					1
日本	3	2	2			7
計	10	11	18	12	11	62

【第1回】

《期間》平成19年11月20日(火)～23日(木)
 《日程》〈1日目〉釧路・十勝支庁
 〈2日目〉十勝・日高支庁
 〈3日目〉胆振支庁、ザ・ウインザーホテル洞爺、ルスツリゾート

《主な視察内容及び視察先》
 〈釧路〉釧路湿原における自然保護の取組、アイヌ文化の紹介

視察先：釧路湿原展望台、阿寒湖温泉アイヌコタン
 郷土芸能：アイヌ舞踊

〈十勝〉十勝農業と環境配慮に対する取組

視察先：財団法人十勝圏振興機構、カールプレックスおびひろ、川西農業協同組合ながいも選果場

〈日高〉環境保全による日高沖水産資源復活の取組、サラブレッド若馬育成調教の取組

視察先：えりも岬国有林(車中)、襟裳岬「風の館」、アポイ岳ビジターセンター、日本中央競馬会日高育成牧場

〈胆振〉火山と共生するまちの紹介

視察先：有珠山ロープウェイ



釧路湿原の取材

【第2回】

《期間》平成19年12月12日(水)～14日(金)
 《日程》〈1日目〉檜山・渡島支庁
 〈2日目〉後志支庁、ザ・ウインザーホテル洞爺、ルスツリゾート
 〈3日目〉後志・石狩支庁

《主な視察内容及び視察先》
 〈檜山〉勝山館跡(国指定史跡)の紹介、江差追分をはじめとする郷土芸能披露

視察先：いにしえ街道、上ノ国町勝山館跡ガイダンス施設

郷土芸能：江差追分

〈渡島〉国指定特別史跡「五稜郭」を生かした地域づくりなどに関する情報発信

視察先：五稜郭タワー、函館山、函館市クリスマスファンタジー

郷土芸能：松前神楽

〈後志〉世界的観光地を目指す「ニセコブランド」の発信

視察先：ニセコグラン・ヒラフ、ニッカウキスキー余市工場、北一ガラス、小樽握り寿司体験

郷土芸能：小樽潮太鼓・音頭

〈石狩〉北海道大学における環境関連分野などに関する最先端の取組及び札幌市における自然と都市の調和に関する取組

視察先：北海道大学、札幌コンサートホール「Kitara」、モエレ沼公園



ニセコプロモーション協議会の取材

【第3回】

《期間》平成20年2月20日(水)-22日(金)
 《日程》〈1日目〉網走支庁
 〈2日目〉根室支庁
 〈3日目〉根室支庁
 《主な視察内容及び視察先》
 〈網走〉流水クルーズ・ウォーク体験、知床世界自然遺産の現状と課題、流水トラスト運動の取組
 視察先：流水砕氷船「おーら号」、財団法人知床財団知床自然センター、ウトロ温泉オーロラファンタジー
 〈根室〉若手酪農家集団による都市と農村の交流に関する取組、北方領土問題の周知、元島民との意見交換、ラムサール条約登録湿地「風蓮湖・春国岱」での自然環境保全に関する取組
 視察先：根室市伊藤牧場、納沙布岬、北方四島交流センター、春国岱ネイチャーセンター
 郷土芸能：ねむろ太鼓



流水ウォークの体験

【第4回】

《期間》平成20年4月2日(水)-4日(金)
 《日程》〈1日目〉上川支庁
 〈2日目〉空知支庁
 〈3日目〉胆振支庁、ザ・ウインザーホテル洞爺、ルスツリゾート
 《主な視察内容及び視察先》
 〈上川〉日本最北の動物園における独自の取組、元ゴルフ場を森に還す取組、日本画のレクチャー
 視察先：旭山動物園、NPO法人富良野自然塾、後藤純男美術館
 〈空知〉雪冷熱利用による環境と経済の両立を目指すまちづくり、歴史的遺産と芸術を融合させた地域再生の取組、農業高校による新エネルギー開発の取組
 視察先：沼田町米穀低温貯留乾燥調製施設「スノークールライスファクトリー」、アルテピアッツア美唄、岩見沢農業高等学校、新十津川そば打ち体験
 郷土芸能：新十津川町子供太鼓「鼓狸」、三笠北海盆踊り
 〈胆振〉自然と共に生きる叡智「アイヌ文化」をまちづくりに取り入れた白老町の取組
 視察先：アイヌ民族博物館「しらおいポロトコタン」
 郷土芸能：アイヌ舞踊



三笠北海盆踊りでの交流

【第5回】

《期間》平成20年5月14日(水)-16日(金)
 《日程》〈1日目〉留萌支庁
 〈2日目〉留萌・宗谷支庁
 〈3日目〉宗谷支庁
 《主な視察内容及び視察先》
 〈留萌〉日本最北の酒蔵、ニシン乱獲の歴史と海洋環境も含めた回復の歴史
 視察先：國稀酒造株式会社、旧商家丸一本間家、旧花田家番屋、北海道栽培漁業振興公社羽幌事業所、北海道海鳥センター
 郷土芸能：羽幌町こきりこ唄
 〈宗谷〉湿原再生の取組、日本最北の地における再生可能なエネルギーの研究と実用化
 視察先：サロベツビジターセンター、稚内メガソーラー、稚内公園新エネルギーサテライト、宗谷岬ウインドファーム、猿払アイスクリームづくり体験
 郷土芸能：稚内南中ソーラン
 〈その他〉旭川医科大学における遠隔地医療の取組(プレゼンテーション)



宗谷岬ウインドファームの取材



アメリカ(左上)、ドイツ(右上)、タイ(左下)、中国(右下)など世界のメディアで報道された北海道の環境技術、観光、食

5 外務省招へいによる海外報道関係者の来道等

外務省が行う海外報道関係者の訪日招へい事業においては、その滞在日程中、サミット開催地である本道訪問が多く盛り込まれた。北海道としては、外務省の委託を受けた(社)国際交流サービス協会と連携し、この機会を捉えてサミットの準備に取り組む道内の状況を説明するとともに、関係自治体等の協力による、洞爺湖町や壮瞥町等、サミット会場周辺の自然や環境施策、美唄市や札幌市での雪氷エネルギー利用施設の紹介等により、北海道の観光や環境への取組等に関する情報提供を行った。

【外務省による海外報道関係者招へいへの対応】

時 期	報道機関国名	人数
H19. 7	マレーシア	2
H19.12	中国、東南アジア6国	10
H20. 2	韓国	4
H20.2-3	ガーナ等アフリカ5国	5
H20. 3	フランス、イタリア等	3
H20. 5	ケニア等アフリカ17国	18
H20. 6	アメリカ、ロシア等3国	4
H20. 6	メキシコ、中国等6国	6
合 計	38か国	52



中国、東南アジア各国報道関係者への北海道情報発信

また、外務省委託事業により、(財)フォーリン・プレス・センターが行った在京外国報道関係者を対象としたプレスツアーでは、平成19年8月及び平成20年6月の2回来道され、洞爺湖、ニセ

コ方面や札幌、宗谷地域等を訪れた。

このうち、平成19年8月の来道では、中国、韓国、台湾、フランス、シンガポール等、10か国(地域)から新聞、テレビ等の16機関計17名の在京外国報道関係者が来道された。一行は30日(木)、31日(金)の1泊2日の日程で、洞爺湖ビジターセンター、有珠山、昭和神山、ザ・ウィンザーホテル洞爺の視察、また、ニセコ地域でのカヌー体験や地元の観光プロモーションボードの取材、倶知安町内家具店訪問等を行い、札幌にて高橋知事のインタビューを行った。



在京外国報道関係者による高橋知事へのインタビュー

各訪問先では、洞爺湖畔での昼食時に洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町の各町長等地元関係者との懇談が行われ、宿泊先の後志管内のホテルでは、地元太鼓団体の勇壮な演奏による一行出迎えや、地元産品をふんだんに活用した料理による夕食会が行われる等、地域の魅力を外国報道関係者に知ってもらうことに力が注がれた。

ツアーの様子は、台湾テレビ(台湾)やシンガポール・プレス・ホールディングス(シンガポール)、金融時報(中国)、Prothom Alo (バングラデシュ)等で報道された。

6 日本外国特派員協会における知事ブリーフィング

北海道でのサミット開催が決定して以降、国内外からの問い合わせ等が増えてきたことから、サミットに向けた取組や本道の魅力を外国報道関係者等に広く知っていただくため、高橋知事が(社)日本外国特派員協会において、在京外国人記者らを対象にブリーフィングを行った。

日時	平成19年11月1日(木)
場所	(社)日本外国特派員協会
参加者	計45名(外国報道機関、各国大使館、外資系企業の方々等)

当日は、昼食にサケ(雄武漁協提供)、ホタテ(常呂漁協提供)、タマネギ(きたみらい農協提供)、ジャガイモ(留寿都村提供)や道産チーズ(よつ葉乳業(株)提供)を提供するとともに、北海道観光を紹介する多言語のDVDを上映し、参加者に本道の観光と食の魅力を目と舌で感じていただいた。

昼食後のブリーフィングは、質疑を含め約1時間20分となり、冒頭、高橋知事から、サミットへの想いと決意や、自然環境、食、観光に関する本道の魅力、また、「北海道洞爺湖サミットの夕べ」や「プレスツアー」といった、道民会議が行う海外報道関係者向けの事業の紹介等を行った。



ブリーフィングを行う高橋知事

特に、本道の魅力に関する説明については、自然環境について、多様な動植物や自然と共生してきたアイヌの方々のお話も織り交ぜつつ説明されるとともに、雪氷エネルギーや風力発電、木質ペレット等、自然環境を活かした環境分野での取組についても紹介された。食については昼食メニューが道産品であることをあらためて紹介の上、安全・安心の食ブランドの拡充に向けた取組等を説明した。また、観光については、「花」を中心とした道内各地の見どころ、海外からの観光客増加の状況や観光ホスピタリティ運動等の取組等を説明した。

こうしたブリーフィングに参加者からは、サミット時のジャーナリストの自由な取材や、サミット開催に係る地元負担等、サミットに関連する質問に加え、北海道経済の状況やオーストラリアとの経済連携協定に関する考え方等、幅広い質問がなされた。



道産食材で満載の昼食



DVD 使用による北海道観光の紹介

7 北海道洞爺湖サミットの夕べ

在京の外国報道機関及びサミット関係大使館などを招き、北海道の魅力を伝えるとともに、サミットの開催気運を盛り上げるために、「北海道洞爺湖サミットの夕べ」を開催し、約450名が参加した。開催に先立って、在京の外国報道機関への案内に際しては、外務省及び(社)日本外国特派員協会などの協力をいただいた。

日時	平成19年11月16日(金)
場所	東京プリンスホテル
参加者	約450名 G8各国大使館員、外国報道機関の特派員、道内選出の国会議員、道民会議への協賛企業・団体関係者等

当日は、主催者の高橋知事(道民会議会長)の挨拶に続き、来賓の町村内閣官房長官、冬柴国土交通大臣、鴨下環境大臣、木村外務副大臣、御手洗日本経済団体連合会会長から挨拶をいただくとともに、道内選出の武部衆議院議員、鳩山衆議院議員、豊浦町出身でボクシングWBC世界フライ級チャンピオンの内藤大助氏、脚本家の倉本聰氏からスピーチをいただいた。



来賓及び高橋知事による鏡開き

また、道内の多くの企業、団体の協力をいただき、函館市在住の谷目基氏が道産木材で製作したパイプオルガンの演奏で来場者をお迎えするとともに、白老牛、焼尻産サフォーク羊、伊達産マツカワ、豊浦産SPF豚をはじめとした道産食材をふんだんに使ったメニューや道産の酒、スイーツを提供し、苫小牧市出身の民謡歌手伊藤多喜雄氏のソーラン節の歌声と東京農業大学学生による稚

内南中ソーランが演舞披露された。

このほか、場内に色鮮やかな道産の花きが飾られ、雪氷冷熱技術の実演展示のほか、アイヌ衣装や観光、自然の紹介パネル、自然をテーマにした写真を多数展示し、海外向けPRパンフレットやDVDも配布した。



道産食材をふんだんに使用した数々の料理

【プログラム概要】

主催者挨拶

高橋知事(道民会議会長)

来賓挨拶

町村内閣官房長官、冬柴国土交通大臣、鴨下環境大臣、木村外務副大臣、御手洗経団連会長

福田総理大臣からのメッセージ披露

鏡開き

冬柴国土交通大臣、鴨下環境大臣、木村外務副大臣、御手洗経団連会長、牛尾観光立国戦略会議座長、ポーヴァ伊大使、フライ英国大使、ヨアヒム・デア独大使、ベールィ露大使、リチャードソンEU大使、ドノバン米代理大使、ポビアッシュ加代理大使、バジョン仏代理大使、高橋知事、南山道経連会長、釣部道議会議長

スピーチ

武部衆議院議員、鳩山(由)衆議院議員、内藤大助氏(ボクシングWBC世界フライ級チャンピオン)、倉本聰氏(脚本家)

【「北海道洞爺湖サミットの夕べ」開催に協力いただいた企業・団体】

ホクレン農業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会、北海道酒造組合(國稀酒造(株)、田中酒造(株)、小林酒造(株))・日本酒造組合中央会、サッポロビール(株)、アサヒビール(株)、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所、(有)洞爺湖ワイナリー月浦ワイン醸造所、北海道ワイン(株)、サッポロ飲料(株)、アサヒ飲料(株)、(株)きのとや、(株)壺屋総本店、(株)ホリ、(株)柳月、六花亭製菓(株)、(株)ロイズコンフェクト、(株)わかさいも本舗、(株)本間武男、(株)日本航空、北海道洞爺湖サミットを道産花きで応援する会、NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク、北海道電力(株)、(株)北海道銀行、(株)東和エンジニアリング、(株)ジェイドコーポレーション、アイヌ文化交流センター、大規模長期食糧備蓄基地構想推進協議会、北海道人形作家協会、白老町、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町、清里町、羽幌町

8 各国先遣隊歓迎夕食会

各国の先遣隊(本国政府の関係者が準備状況確認のため、来道するもの)の視察の際、食をはじめとする北海道の魅力を発信し、おもてなしの心を伝える機会としてレセプションを開催した。

レセプションでは、北海道のセールスポイントをプレゼンテーションするとともに、道産食材を活用した食事を提供し、各食材に当該国母国語によるキャプションを付け、道産食材をPRした。こうした道産食材や飲料等については、関係市町村、企業・団体から多くの協賛をいただいた。

また、会場内では、観光、企業立地、農林水産業等のパネルの設置、観光に関するDVDの放映等を行うとともに、伝統・民俗芸能の披露などによるアトラクションや工芸品等の記念品の贈呈を通じ、本道のPRに努めた。



プレゼンテーション



伝統・民俗芸能の披露

【食材・飲料・スイーツの協賛】

札幌市、函館市、室蘭市、帯広市、美唄市、芦別市、三笠市、根室市、千歳市、登別市、恵庭市、伊達市、真狩村、共和町、余市町、由仁町、壮瞥町、白老町、洞爺湖町、鹿追町、北海道酒造組合、北海道ワイン(株)、月浦ワイン(有洞爺湖農産)、池田ワイン(池田町ブドウ・ブドウ酒研究所)、サッポロビール(株)、アサヒビール(株)、サントリーフーズ(株)、北海道コカ・コーラボトリング(株)、(株)ホリ、(株)きのとや、(株)わかさいも本舗

【記念品等の提供】

錦水流水引会、(株)クルーズ、(株)日本航空、(株)本間武男、(社)北海道観光振興機構



アメリカ先遣隊との懇談



先遣隊への記念品

【夕食会日程】

(G 8)

月日	国	相手国参加者	市町村長	アトラクション	場所
2月26日(水)	カナダ	駐日カナダ大使館公使 他13名	菊谷 伊達市長 林 芦別市長 飴谷 白老町長 吉田 鹿追町長	江差追分 (江差追分会)	洞爺サンパレス
3月4日(火)	イタリア	外務省儀典局長 他24名	山中 壮瞥町長 板東 美唄市総務部長	江差追分 (江差追分会)	札幌グランドホテル
4月24日(木)	英国	駐日英国大使館一等書記官 他10名	新宮 室蘭市長 長谷川 根室市長 中島 恵庭市長 長崎 洞爺湖町長 新谷 余市町副町長 鶴田 由仁町副町長	琴・シンセサイザー (舞里音)	ホテルコムズ新千歳空港
5月12日(月)	ロシア	副儀典長 他23名	西尾 函館市長 長谷川 根室市長 飴谷 白老町長	日本太鼓 (北海道太鼓連盟)	洞爺湖畔亭
5月12日(月)	欧州連合	シェルパ補佐官 他5名	山中 壮瞥町長 佐々木 真狩村長 内田 登別市副市長	日本舞踊 (藤間琴苑舞踊団)	洞爺山水ホテル和風
6月3日(火)	ドイツ	外務省儀典副局長 他13名	駒澤 千歳市副市長 生島 札幌市総務局長	江差追分 (江差追分会)	ザ・ウィンザーホテル洞爺
6月9日(月)	フランス	儀典長 他17名	新宮 室蘭市長 砂川 帯広市長 山本 共和町長 山中 壮瞥町長 工藤 函館市副市長	江差追分 (江差追分会)	ザ・ウィンザーホテル洞爺
6月15日(日)	アメリカ	大統領次席補佐官 他51名	小林 三笠市長 山中 壮瞥町長	江差追分 (江差追分会)	ザ・ウィンザーホテル洞爺

(G 8 以外の国)

月日	国	相手国参加者	市町村長	アトラクション	場所
4月23日(水)	インドネシア	外務省儀典長 他8名	—	—	札幌後楽園ホテル
4月23日(水)	オーストラリア	駐日オーストラリア大使館一等書記官 他4名	—	—	札幌プリンスホテル
6月2日(月)	ブラジル インド インドネシア メキシコ 南アフリカ エチオピア	駐日ブラジル大使館参事官 インド特別警護課長 インドネシア外務省儀典長 メキシコ外務省儀典長 南アフリカ大統領警備課長 駐日エチオピア大使 等総勢54名	—	アイヌの踊り (アイヌ詞曲舞踊団 モシリ)	ルネッサンスサッポロホテル
6月6日(金)	中国	外交部礼賓司長 他34名	—	日本太鼓 (国際太鼓道連盟)	ルネッサンスサッポロホテル
6月9日(月)	韓国	外交通商部儀典長 他27名	—	日本太鼓 (北海道太鼓連盟)	京王プラザホテル札幌

9 G8 サミット閣僚会合における広報活動

G8 サミット閣僚会合を取材する国内外報道関係者に対して、サミット開催地としての北海道の魅力をPRするため、関係省庁及び地元関係者の協力を得て各会合のプレスセンター内などに特設ブースを設置した。そのうち労働大臣会合、環境大臣会合、第4回アフリカ開発会議、財務大臣会合、外務大臣会合においては道民会議事務局員を現地に派遣し、道民会議公式ポスターや卓上のぼり等の掲出のほか、北海道情報誌、サミット啓発リーフレットやYokoso! HOKKAIDO PASS案内チラシの配布とともに、サミット時に来道予定の報道機関からの照会への対応など、広報活動を実施した。



労働大臣会合での北海道ブースに立ち寄る外国報道機関



環境大臣会合で外国報道機関に PR

・広報活動を実施した G8 サミット閣僚会合

会合	開催期間	開催都市	会議場	プレスセンター
労働大臣会合	5月11日(日) -13日(火)	新潟市	朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)	同左
環境大臣会合	5月24日(土) -26日(月)	神戸市	神戸ポートピアホテル	神戸国際会議場
第4回アフリカ開発会議	5月26日(月) -28日(水)	横浜市	パシフィコ横浜	同左
エネルギー大臣会合	6月7日(土) -8日(日)	青森市	ホテル青森	同左
財務大臣会合	6月13日(金) -14日(土)	大阪市	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)	同左
科学技術大臣会合	6月15日(日)	名護市	万国津梁館	同左
外務大臣会合	6月26日(木) -27日(金)	京都市	京都迎賓館	国立京都国際会館

10 国際メディアセンター開所式・開所記念レセプション

平成20年7月5日(土)の国際メディアセンター及び北海道情報館のオープンに際し、道民会議は国と連携して、道内外の関係者を招いて開所式及び開所記念レセプションを開催し、北海道情報館の周知及び国際メディアセンターの円滑な利用の促進を図った。

国際メディアセンター(ザ・メイン)入口前で行われた開所式では、町村内閣官房長官、高橋知事(道民会議会長)による挨拶の後、テープカットが行われた。その後、出席者による環境ショーケース、記者ワーキングルーム、北海道情報館の内覧が行われた。

国際メディアセンター(ホテル&コンベンション)で開催された開所記念レセプションでは、知事による挨拶に続いて、来賓による道産日本酒による鏡開き、内閣官房長官による乾杯が行われた。会場では、白老牛や由仁産サフォーク羊、浜中産時鮭をはじめとする道産食材をふんだんに使ったメニューや北海道酒造組合から提供された道産日本酒などが振る舞われ、全国すし商生活衛生同業組合連合会による道産水産物を活用した寿司の実演サービスや、アトラクションとして江差追分会による江差追分が披露された。

日時	平成20年7月5日11:30-13:30
主催	外務省、道民会議 (レセプションは道民会議単独開催)
出席者	160名 G8各国大使館員、国内外報道関係者、官房長官、道内選出国会議員、外務事務次官、関係省庁職員、北海道議会正副議長、北海道議会関係議員、関係市町村長、留寿都村民、知事、道民会議役員

【プログラム概要】

- 開所式
 - 主催者挨拶
町村内閣官房長官、高橋知事
 - テープカット
町村内閣官房長官、敷中外務事務次官、高橋知事
- レセプション
 - 主催者挨拶
高橋知事
 - 鏡開き
町村内閣官房長官、武部衆議院議員、吉川衆議院議員、橋本参議院議員、風間参議院議員、深田外務省G8サミット準備事務局長、藤田国土交通省営繕部長、鈴木北海道開発局長、高橋知事、釣部道議会議長、高向北海道商工会議所連合会会頭、佐々木北海道経営者協会会長、坂本北海道経済同友会会長、飛田北海道農業協同組合中央会会長、澤留寿都村長
 - 乾杯
町村内閣官房長官
 - アトラクション
江差追分(江差追分会)
 - 乾杯
澤留寿都村長



開所記念レセプション



江差追分も披露されたレセプション

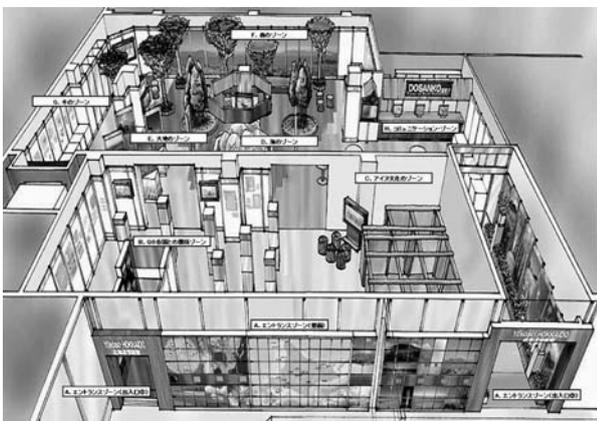
11 北海道情報館

(1)北海道情報館の概要

ア コンセプト

道民会議では、国際メディアセンターを利用する報道関係者を通じて北海道の情報を世界に発信するための拠点「北海道情報館」を国際メディアセンターホテル&コンベンション内に開設した。会場としては、国際メディアセンターのザ・メインからホテルへの出入口に位置するスキロッカー室(約 460 m²)を活用し、これを8つのゾーン(エントランス、G8 との関係、アイヌ文化、海、大地、冬、森、コミュニケーション)に分けて、北海道の個性と魅力を発信した。

サミット関連記事の冒頭に使われる地元紹介用の素材を提供することに主眼をおき、北海道の自然や歴史・暮らしなど、北海道の様々な姿について、実物、パネル、映像、プレスシートなどを用いて多角的に紹介することとした。特に、サミット取材で多忙な政治・経済系の報道関係者等にも作業の合間に足を運んでいただくため、「体験と体感」、「取材の触発・誘発」、「癒しと休息」の3つの要素を重視した演出を実施した。



イ 展示品等の選定

コンセプトを効果的に表現する展示品を選定するため、道民会議では、学識経験者及び経済、食、観光、環境、行政に知見の深い6名の委員

から構成される「北海道情報館コンテンツ選定委員会」を設置し、道民や関係団体等から寄せられた情報の中から316の展示品等(物品、写真、映像、試食試飲品、装飾品、設営資材)を選定した。

ゾーン	展示品数
エントランスゾーン	14
G8との関係ゾーン	23
アイヌ文化ゾーン	63
海のゾーン	41
大地のゾーン	9
森のゾーン	35
冬のゾーン	25
コミュニケーションゾーン	94
設営資材	12
合計	316

ウ 展示構成

(ア)エントランスゾーン

国際メディアセンターのザ・メインに近い入口では、知床や流水、雪国の暮らしなど、北海道の自然や様々な表情を写真や映像で表現。ホテル奥側の入り口では、ハマナスやラベンダーなどの北海道の花を飾るとともに、四季の美しさを表現した豊かな自然の写真パネルを掲示。2ヶ所の入口の間の壁面には北方領土を含む本道のジオラマを掲出するとともに、北海道の自然と動物の動きをダイナミックに表現した。



(イ) G8 との関係ゾーン

日本を除くG8各国と北海道との交流の歴史を示す模型や写真などを展示するとともに、北方

領土問題の存在についても、外務省と協議の上、歴史文書やパネル、映像などを活用して発信した。



(ウ)アイヌ文化ゾーン

チセと呼ばれる伝統的な家屋を復元するとともに、自然と調和した暮らしを彩る様々な祭具や衣装、生活用品を映像を交えて表現し、アイヌ文化を世界に向けてアピールした。

また、専門家によるムックリやトンコリの演奏やアイヌ衣装の試着サービスを実施し、プレス関係者から高い関心を集めた。



(エ)海のゾーン

春先にオホーツク海に浮かんでいた流氷を取り寄せて、海の豊かさをもたらすメカニズムと、地球温暖化のセンサーとしての役割を表現するとともに、専門家による解説を行った。なお、流氷のメカニズムを説明する「紙芝居」の原画の一部については、流氷接岸地である紋別高等養護学校の生徒に作成していただいた。

また、北海道の代表的な水産物であるサケと

コンブ、ホタテを生きのまま展示するとともに、サケのふ化増殖技術やサケと森林などの自然環境との関わりを説明し、さらにサケの骨や皮などを高度利用した製品の展示も行った。



(オ)大地のゾーン

広大な牧場や畑など本道農業のイメージ映像を上映したほか、稲やジャガイモの品種改良や牛乳の品質管理などの北海道農業の技術水準の高さをアピールするとともに、食の安全安心を表現した。



(カ)森のゾーン

サミット取材に多忙な記者の憩いの場として、根や葉が付いた生木や季節の花を飾ったほか、パークゴルフや木のおもちゃなどの体験型の遊具を展示した。当初の予想を超えて好評だったのは木のボールプールで、足の疲れや腰の張りがとれると評判で何度も訪れる記者もいた。ボールプールに隣接する一角では、本道における世界的な研究開発事例として、「ケミカ

ルバイオテクノロジー」「鳥インフルエンザ」「機能性食品」の研究成果などを展示し、本道の先端技術のPRを行った。



(キ)冬のゾーン

生活と暮らしというテーマで、北方住宅や除雪技術、冬の福祉用具などを通じて積雪6mの土地に200万人が生活する知恵と工夫を紹介するとともに、ウィンタースポーツや温泉、祭りをハイビジョン映像や雪まつりの模型などで表現した。



(ク)コミュニケーションゾーン

プロ通訳を起用して外国人報道関係者からの質問に対応したほか、首脳会議場となったザ・ウィンザーホテル洞爺で展示された本道初の国宝である「中空土偶」の説明や乳製品やワインなどの試飲・試食を実施した。

試飲コーナーでは、道立札幌高等養護学校、道立新篠津高等養護学校、道立今金高等養護学校、道立美深高等養護学校、道立紋別高等養

護学校、道立伊達高等養護学校の生徒が作成した600個の「ぐい飲み」を生徒からのメッセージ(日・英)に当該校のメールアドレスを付けて配布した。このぐい飲みの一部は、北海道情報館を訪れた米国政府職員を通じて、ブッシュ米大統領にも届けられ、サミット終了後に各養護学校に対して大統領からの感謝メッセージが届けられた。

試食に関しては、特にチーズに対する反響が大きく、7月6日(日)に福田総理大臣夫妻が北海道情報館を視察に訪れた際、チーズを試食した総理から「これ本当においしいね。」と絶賛いただき、急遽、2種類のチーズをザ・ウィンザーホテル洞爺へ届け、当夜、開催されたブッシュ大統領歓迎晩餐会で活用いただいた。また、用意した18種類すべてのチーズを試食したフランス大統領府の職員からは、「日本にこれほどすばらしいチーズが多数あるとは驚きである。」とのコメントをいただいた。

アルコール類に関しては、19時から道産の日本酒とワインの試飲を実施した。外国人記者が多数集まる「サロン」的な雰囲気になり、道民会議が手配した英語通訳を交えてサミット関連の話題が花咲く中、北海道の食や観光などの紹介をさりげなく織り込むなど、記者とスタッフとの草の根の交流・プロモーションを図ることができた。



(2) 来場者数

北海道情報館は7月5日(土)正午から7月10日(木)正午までの6日間、10時から22時まで開設し、延べ4,964名の来場者を集めた。

5日の開所式の際に北海道知事や官房長官、6日には総理大臣夫妻、8日(火)には各国首脳夫人が北海道情報館を訪れ、その度に様々なメディアで紹介された。さらに、閉館した11日(土)以降も様々な新聞やテレビで北海道情報館の内容や取組が紹介された。

【来場者数及び開館時間】

月 日	来場者数	開館時間
7月5日	656名	12:15~22:00
7月6日	1,089名	10:00~22:00
7月7日	1,026名	10:00~22:00
7月8日	1,038名	10:00~22:00
7月9日	957名	10:00~22:00
7月10日	198名	10:00~12:00
合 計	4,964名	

(3) 海外プレス関係者等の反応

7月8日(火)から10日(木)までの3日間、北海道情報館を訪れた海外報道関係者等(NGO及び政府関係者含む)に対して、アンケート調査を実施し、60名から回答を得た。

関心の高い展示は、アイヌ文化(24名)、農業(20名)、G8との関係(19名)、流水(18名)、先端技術(18名)、北方領土(16名)、コミュニケーション(16名)であり、本国へ伝えたい情報としてはアイヌ文化(21名)、食(21名)、先端技術(21名)の回答が多かった。

回答者のうち、北海道情報の提供を希望している39名分のメールアドレスを、(社)北海道観光振興機構が発行する「外国人プレス・旅行エージェント向けメールマガジン」へ掲載し、継続的に北海道の情報提供を行うなど、本道の食と観光のプロモーションに活用している。

12 Yōkoso! HOKKAIDO PASS

サミットの取材のために来道する外国報道機関を対象に、列車やバスで広く北海道を周遊し、北海道の魅力への理解を深めてPRしていただくことを目的として、取材用無料パス「Yōkoso! HOKKAIDO PASS」を発行した。

パスの発行にあたっては、鉄道事業者、バス関係団体、バス事業者など24社・団体(13都市地区)の協力のもと、パス利用の円滑化やサミットの歓迎気運を高めるため、乗車可能なバス車両約3,200台に、専用ステッカーを貼り付けた。

【パス利用期間】

サミット前後の平成20年7月2日(水) - 6日(日)又は7月10日(木) - 14日(月)

【パス引換者数】

123名 17か国・地域

【パス発行に協力いただいた事業者・団体】

北海道旅客鉄道(株)、北海道バス協会、北海道中央バス(株)、(株)じょうてつ、夕張鉄道(株)、ばんけい観光バス(株)、ジェイ・アール北海道バス(株)、函館バス(株)、道南バス(株)、道北バス(株)、旭川電気軌道(株)、宗谷バス(株)、ふらのバス(株)、十勝バス(株)、北海道拓殖バス(株)、北海道北見バス(株)、網走バス(株)、斜里バス(株)、網走交通バス(株)、くしろバス(株)、阿寒バス(株)、根室交通(株)、国際観光バス(株)、ワカサリゾート(株)



「Yōkoso! HOKKAIDO PASS」パス手帳



「Yokoso! HOKKAIDO PASS」案内チラシ



専用ステッカー



専用ステッカーを貼り付けたバス

13 アウトリーチ国・国際機関歓迎レセプション

7月7日(月)及び9日(木)の拡大会合に出席する首脳及び国際機関の長が札幌市内に滞在したことから、サミット期間中、道民会議、北海道及び札幌市の主催により、各国首脳等を対象とした歓迎レセプションを開催し、歓迎の意を表するとともに、地元との交流を図った。

【7月7日の拡大会合に出席する首脳等を対象としたレセプション・開催概要】

「北海道の夏・祭り」をコンセプトに実施し、主催者の挨拶に続き、各国代表らによる檣点灯、ミスさっぽろから各国代表団への花束贈呈が行われた。続いて、乾杯を合図に各国との懇談・交流が行われ、国際太鼓道連盟及び北海道太鼓連盟による太鼓演奏とともに、北海盆踊りが会場を盛り上げ、最後に札幌市長による挨拶により終了した。

レセプションでは、アルジェリア代表から、突然返礼として高橋知事に花束が贈呈されるサプライズもあった。

また、十勝産長芋、増毛産牡丹海老、オホーツク産帆立貝、北檜山産サフォーク仔羊をはじめとした道産の食材をふんだんに使ったメニューや道産の酒、スイーツを提供した。

日 時	平成20年7月6日(日)20:00-21:30
場 所	札幌パークホテル
主 催	道民会議、北海道、札幌市
出席者	111名 <ul style="list-style-type: none"> 各国代表団(15名) アルジェリア特命国務大臣 駐日南アフリカ大使夫人 国内招待者 国会議員、北海道議会正副議長、北海道議会関係議員、札幌市議会正副議長、札幌市議会関係議員 主催者 知事、札幌市長、道民会議構成団体、道民会議顧問
通訳協力	(財)日本国際協力センター

【プログラム概要】

主催者挨拶

高橋知事（道民会議会長）

檜電飾点灯式

メサヘル・アルジェリア大臣、ケトランジ・駐日アルジェリア大使、高橋知事、上田札幌市長

乾杯

高向北海道商工会議所連合会会長

アトラクション

太鼓演奏（国際太鼓道連盟、北海道太鼓連盟）

中締め

上田札幌市長

【7月9日の拡大会合に出席する首脳等を対象としたレセプション】

各国、国際機関の関係者の出席をいただき、「地球環境への願い」をコンセプトに実施した。

主催者を代表した知事(道民会議会長)の挨拶に続き、来賓の外務大臣から挨拶をいただいた。

その後、北大のポプラを材料にしたチェンバロの演奏をバックに、札幌市内の小学生による各国首脳、国際機関の長に対する花束贈呈が行われた。

引き続き、北海道経済連合会会長の乾杯を合図に懇談・交流が行われ、北海道内唯一の交響楽団である札幌交響楽団による演奏も披露された。

レセプション終盤には、北海道に到着したばかりの経済協力開発機構事務総長が飛び入りで参加し、スピーチをいただいた。最後は、札幌市長による挨拶により終了した。

道内でこれだけ多くの首脳が一堂に会したレセプションは初めてのことであり、道民会議主催としても最も大きなイベントとなった。高橋知事も全ての首脳と懇談を行い、北海道の魅力を伝えるとともに、サミットについて意見交換を行った。

また、日高産時鮭、網走産キンキ、白老牛、新得産エゾシカ肉をはじめとした道産の食材をふんだんに使ったメニューや道産の酒、スイーツを提供した。

北海道洞爺湖サミットアウトリーチ国・国際機関



各国代表と知事、札幌市長による檜点灯式



料理を楽しみながら太鼓と盆踊りを堪能する参加者



アルジェリア代表から返礼の花束贈呈



地元小学生から各国首脳への花束贈呈

日 時	平成20年7月8日(火)19:30-21:00
場 所	ルネサンスサッポロホテル
主 催	道民会議、北海道、札幌市
出席者	<p>221名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国代表団(93名) 南アフリカ大統領 中国国家主席 韓国大統領 国連事務総長 経済協力開発機構事務総長 国際エネルギー機関事務局長 ・国内招待者 外務大臣、国会議員、北海道議会正副議長、北海道議会関係議員、札幌市議会正副議長、札幌市議会関係議員 ・主催者 知事、札幌市長、道民会議構成団体、道民会議顧問
通訳協力	(財)日本国際協力センター

【プログラム概要】

主催者挨拶
 高橋知事（道民会議会長）
 来賓挨拶
 高村外務大臣
 首脳への花束贈呈
 乾杯
 近藤北海道経済連合会会長
 アトラクション
 札幌交響楽団
 挨拶
 グリア経済協力開発機構事務総長
 中締め
 上田札幌市長



各国首脳との記念撮影



レセプション会場の様子



胡錦濤中国主席と懇談する知事